明日へ向かって

第３学年　学年だより
令和５年　６月２３日
第２５号

テストに臨むテクニック

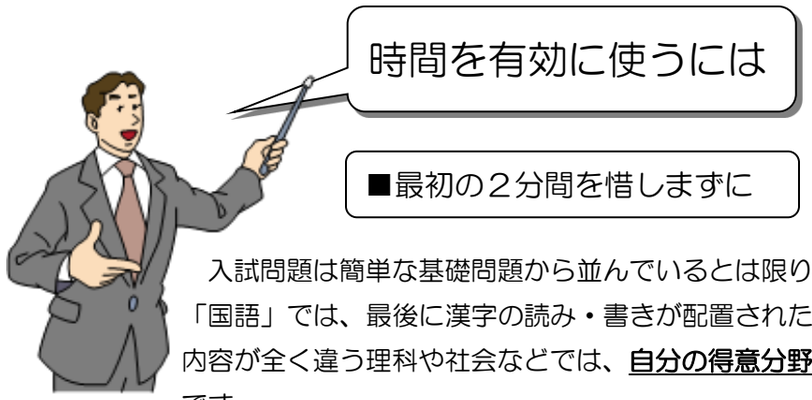
いよいよ来週から一学期の期末テストです。学年だより第３号の言葉を借りるならば、

進路とは、自分の生きざまの延長線上にあるものです。「自分がやってきたこと」「自分がやってこなかったこと」これら全てが、最後の最後には進路を決めるのです。

このことが、期末テストにも言えるでしょう。前にも言ったように、今回のテストは今の自分の状態を客観的に知るバロメーターになります。点数も大事でしょうけれど、もっと大事に考えてほしいのは、「今の自分の実力を正しく計る」という観点です。定期テストは、３年になってから学習したことが本当に身に付いているだろうかと確認するための大切な機能があります。あてずっぽうで書いた答えがまぐれで合っていても、その得点にはあまり意味がないのです。

さて、これから高校入試に向けて数々のテストで自分を鍛えていくにあたり、やはりテストに臨む上でテクニックというのはバカになりません。

テクニックというとなんだか生々しくて、「えぇ～っ？学校の先生がそれ言う？」「それは教育産業に任せたら？」という声が聞かれそう。テクニックというか、「知っておいて損はない」「こうすると効果があがるよ」という知恵袋のようなものと考えてください。



入試問題は簡単な基礎問題から並んでいるとは限りません。実際、都立の検査問題「国語」では、最後に漢字の読み・書きが配置されたことがあります。単元によって内容が全く違う理科や社会などでは、自分の得意分野からつぶしていくのがセオリーです。

教科	最初のほうでとりあえず手をつける問題	時間を取ってじっくりやる問題
国語	漢字の読み・書き、文法問題、説明文など	物語文、古文、漢文のレ点・一、二点など
数学	計算処理、答えが一発で出る単純問題など	証明問題、作図問題、複合問題
英語	リスニングがどこかで行われることを念頭に時間配分を	作文問題
社会	単純な暗記モノ、図や表の空欄を埋める問題など	理由を述べたり、図やグラフを見て答える問題
理科	計算がいらない問題で自分の得意分野から	電気、仕事、熱量など計算が入る問題

※今回の試験範囲とは限りません。一般的な話です

そのため、試験開始２分で、テスト問題にざっくりと目を通してください。

（１）「あっ！これはダメだ！」と思った問題は「×」を付け一番あとに回します。
（２）「できそうだけど時間がかかりそう」という問題に「△」をつけ最後から二番目に。
（３）基礎的な問題や暗記モノから取りかかりますが、暗記モノで「あれっ？覚えたはずなのに…出てこない…」

というのがあったら、速攻でスルーし「☑」を入れておく。あとで思いだした時に書く。
※単純問題１つにこだわって何分もかけるのはもったいないです。

■見直しはまったく異なる視点から

●大前提＝初答を大切にする

人間は思いこむ動物です。一度出してしまった答えの間違いに気付くのは、訓練しないとなかなかできません。初めて出す答えを大切にするとともに、単純基礎問題を２回解けるような時間配分を心がけることです。

●有効な見直しをする

数学や英語、理科の計算を伴う問題や気象、天体の問題は、ざっくりとテスト全体をクリアした後、時間をかけてじっくり取り組み直したい問題がいくつか出てきます。そこに時間を充てるのです。

それが終わって見直しをする場合、まずは単純基礎問題をもう一度解いてみることからはじめます。計算問題など途中式があっているかどうか、自分の答えが正しいかどうかを見直すのは意味がありません。まったく新たな視点でもう一度解き、その答えがさっき書いた答えと合っているか確かめるのです。

理科の気象や天体は、全くの勘違いが生じやすい分野です。寒冷前線と温暖前線の性質をまるっきり逆に考えて、風の向きを 180°反対にしてしまったりします。慎重に解くことをお勧めします。

**ストレスなく解答するには、道具の準備もバカにできない。
ゴキゲンな書き心地、消し心地が実現できる文房具を準備しよう。**

あわせて、当然のことながら、裏面の「定期考査における諸注意」を今一度確認して、試験を受ける態度についても身に付けていくようにしましょう。

文京区立第九中学校　定期考査における諸注意

１　考査期間中の生活（１週間前を含む）

・　学習の計画をたて、準備をしっかりしておく。
・　考査期間は、清掃・学活後はすぐに下校をし、家庭学習をする。
・　委員会や部活動は原則として行わない。
・　職員室・印刷室の出入りは禁止する。

２　考査時

＜予鈴が鳴ったら＞

・　席について静かに待つ。
・　考査中の座席は、出席番号順に座る。
・　机の縦横の列をそろえて座る。
・　机の上に筆記用具以外は置かないこと。（原則として下敷きは使用しない）
✧　ティッシュ、下敷きを使用する場合は、担任に申し出て、氏名を板書する。
・　机の中には何も入れない。本、ノート類などはすべてカバンの中へ入れる。
・　カバンは閉じて教室の後ろに置く。

＜用紙が配布されたら＞

・　用紙を問題が見えないようにして静かに開始を待つ。決して私語をしない。
・　問題用紙の過不足は、手を挙げ監督の先生に申し出る。

＜開始のチャイムが鳴ったら＞

・　問題用紙の枚数、印刷の不備がないかを確認し、問題があったら申し出る。
・　解答用紙に、組・番号・氏名を書く。
・　文字は丁寧に書き、筆記用具はＨＢまたはＢを使用することが望ましい。
・　解答を書き直すときには、消しゴムできれいに消してから書く。
・　考査中に物の貸し借りはしない。
・　質問その他の用事（問題用紙を落とした等）がある場合は、黙って挙手をする。
・　まじめな態度で考査を受ける。よそ見をするなどの、疑わしい行為は絶対にしない。
・　早く終わった場合は、十分に見直しをする。
・　見直しが終わったら解答用紙を伏せて静かに終了を待つ。
・　遅刻して途中からテストを受ける場合、筆記用具のみ持って後ろのドアから静かに入り、監督の先生の指示を受ける。
・　具合が悪くなったり、トイレに行きたくなったりして途中で教室を出たくなった時は、静かに手を挙げて、監督の先生の指示を受ける。

＜終了のチャイムが鳴ったら＞

・　チャイムがなったら、途中でもすぐに筆記用具を置く。
・　最後列の生徒は速やかに、紙の向きをそろえながら、番号順になるように解答用紙を集める。（近くの友達同士で解答用紙を見比べたり、答えあわせをしたりしないこと）
・　終わりの挨拶が済むまで、私語を慎み、席を離れない。

３　考査終了後

・　問題用紙はきちんとまとめてとじておく。
（あとで、解答用紙の返却のときに解説がある）
・　返却後、まちがえたところは必ず復習をする。

修学旅行のコース決めを進めています

今後の予定

２６日（月）	①自習
２７日（火）	期末考査１日目　①国語　②音楽　③美術
２８日（水）	期末考査２日目　①理科　②数学　③保体
２９日（木）	期末考査３日目　①社会　②英語　③技家
３０日（金）	⑤⑥修学旅行コース決め